

やまぶき

埼玉北西部の和算研究の個人通信
(題字 伊藤武夫氏)

第6号 平成二十六年(二〇一四)五月七日

発行部数 十五部 (不定期刊行)

発行者 東京都羽村市

山口正義

美里町、ときがわ町の和算家

一、はじめに

陽気の良くなるのを待って、四月二十二日と二十七日、八高線沿いの美里町と東秩父村、それにときがわ町の算者たちの事績を訪ねました。今回はその内、美里町と、ときがわ町の算者の報告です。

二、小林喜左衛門良匡

小林喜左衛門(寛政元年(一七八九)〜明治七年(一八七四))は、文献(1)に、

美里町木部村の人で俗名を吉五郎と言ひ、算術を志し上州島村の住人田島明匡翁の門をたたき、後に独学研鑽を積んだ。墓は木部の真東寺にあり、戒名は林翁院量伝空算居士。

とあります。八高線松久駅近くに、門人等が師を慕い謝恩の記念として明治五年三月に建てた「関流算術の碑」があります。表は建碑のいわれと喜左衛門の和歌があると言います

がよく読めません。和歌とその意味は脇にある標識の解説に次のようにあります。

むさしのや おくある道は はかるとも

かぞえつくさじ くさの之(その)つゆ

(武蔵野の広野といえども算術をもつてすれば計算できるが、人生は儂いもので、あたかも草の葉の先端の露がぼろろんと落ちて乾いて消えてしまうように、人の命も算術も終わりというものがない(意識))

裏面には、門人百二十九人の名が刻まれています。地元の児玉郡、大里郡の門人が勿論多いですが、中には近江国蒲生郡の人や上毛新田郡、緑野郡の人々の名もあります。

一方、『熊谷市の算額』には、熊谷市三ヶ尻の龍泉寺観音堂の明治十一年の算額には、小林喜左衛門の名と共に門人百五十一名とあるので、三ヶ尻の権田義長とも関係があったようです。

なお、真東寺に伺い喜左衛門の墓を探しま

したが不明でした。その際住職の奥様にお世話になりました。お礼を申し上げます。また文献(1)を入手できたのは幸運でした。美里町図書館の方にお礼申し上げます。



関流算術の碑

三、宮崎萬治郎武貞

宮崎萬治郎(文化五年(一八〇八)〜明治十六年(一八八三))は、比企郡ときがわ町大附の人で、墓碑によれば初名柳吉、号は隆齋、

瀬戸の皎円寺の僧石祐に師事し、長ずるに及んで天文・暦法・医易、さらに数理を究めたとあります。大工が本職であったと言いますが碑文には書かれています。明治十六年に七十六歳で没しています。近隣を教え歩き多くの門人がいたと言われます。墓の台石には、「大字本宿岡田軍治郎を筆頭に、大谷、長瀬、岩川、小山、小杉、西本、大豆戸、五明、腰越、桃木、田中、志賀、日影、其の他の人々が多く姓名を列して居るが、甚だ読み易くない。そうして門人計三百人と記す」(文献4)とあると言いますが、今はほとんど読むことが難しい状態です。「都幾川村史」には門人・世話人等六十名が刻まれているともありますが、なお、神文には「水菜流」とありますが、如何なるものかわからず、伝系は不明です。

神誓文之事

夫文書算術芸能道者人間萬用達之元根也当流執心之輩入此門然上者天下之御法渡相不背万事師命隨心而忠孝之心不忘大道專算術執行於内芸能色不顯于面交友不爭數及算事者則疑心胸霧祓之妙術也故達明而以御治世補依之天地大小之神祇奉祈誓神文血判如件

大月村

宮崎隆齊印

武州比企郡田中村

三十六才

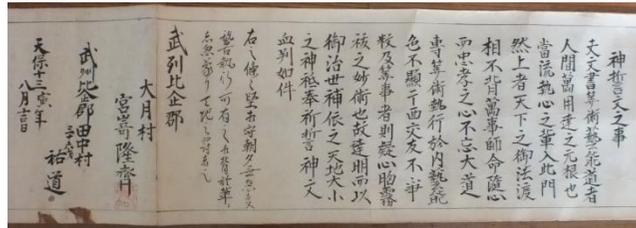
祐道 血判

天保十三寅年

八月吉日

(以下嘉永二年迄二十名)

墓は居宅に近くの畑の間にありますが、実際の墓誌は読みづらくなっていますので、文献(4)で補完すると次のようなものです。



(表)

宮崎萬治郎武貞老翁墓

(裏)

翁氏宮崎名萬治郎初名柳吉號隆齋本郡大附人父曰辰右衛門母岡野氏以文化五年正月五日生性温厚幼好學從瀬戸僧石祐受業及長益進博通天文曆法醫易尤就數理而極其蘊奧名聲聞遠邇執贊者甚衆終以明治十六年十月七日病没於享年七十六以神式葬先塋之次翁娶郡之大橋村岡野氏女古登生一男二女長林貞嗣家越遺族及門人等相謀建墓礪以弔翁之幽魂噫于時明治三十六年五月

宮崎様には神文などを見せて頂き撮影の許可を頂きました。話している内に私の従兄弟や叔父のことなどを知っていることがわかりビックリしました。宮崎様にお礼申し上げます。



宮崎萬治郎武貞老翁墓

参考文献

- (1) 『法燈』No.131 (昭和58年6月号) 真東寺発行 (美里町木部)
- (2) 『熊谷市の算額』野口泰助(熊谷市立図書館昭和37年)
- (3) 『都幾川村史』『都幾川村史資料4(6)』
- (4) 『武蔵比企郡の諸算者』三上義夫

安島直円の墓

去る四月七日安島直円(一七三二〜九八)の墓を見学しました。安島直円は和算史上の四天王(関孝和・松永良弼・安島直円・和田寧)の一人に数えられる人物。安島は幾何図形や円理で特に有名です。幾何図形では任意の三角形内に互いに外接する三円を内接した場合に三辺の長さを知って三円の直径を求めるという「三斜容三円術」の問題(マルハッチの問題)を解いています(この問題は上里町出身の今井兼庭も解いていてどちらが先に解いたかは微妙です)。また円理では和算で初めて積分の概念に近づき、関孝和以来はじめて円柱穿空術(円柱を他の円柱で貫通したときの体積などを求める)に成功しています。墓は都指定旧跡で三田の常林寺にあります。唐破風付の立派なものでした。「祖眞院智量算空居士」とあります。



安島直円の墓

【野口文庫の紹介】

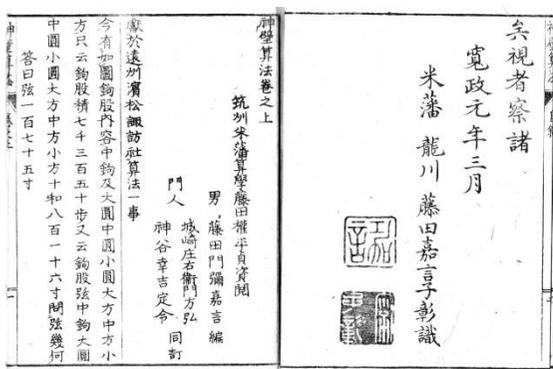
『増刻神壁算法』

神壁算法は最初の算額集として名高い。初版は寛政元年(一七八九)で、藤田貞資、藤田嘉言編とあります。このとき嘉言十八歳であることから実質の編者は貞資と言われています。



この本は上下の二巻で、上巻は六・二・二五丁、下巻は九・二十一・一丁の構成。序は東都源誠美、自叙は米藩龍川藤田嘉言子彰とあり、本文初めに筑州米藩算学藤田権平貞資、男藤田門彌嘉言編、門人城崎庄右衛門方弘、神谷幸吉定令同訂とあり、跋文は城崎方弘。米藩とは久留米藩のこと。明和四年(一七六七)から寛政元年まで二十年余りの諸国の寺社の算額(八十四問?)を記したもので、その多くは藤田貞資の門人のものですが、孫弟子のものもあります。また、宅間流内田

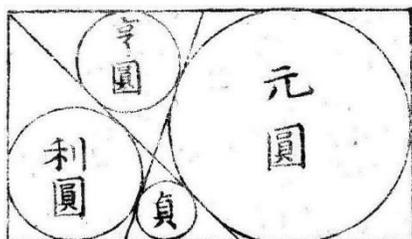
秀富門葉の算額や、天明元年（一七八二）の鈴木安旦（会田安明）の愛宕神社奉額のもの、それに対する天明四年の古川氏清のものもあります（内容未精査）。



本書は増刻版であり、寛政二年から同八年のもの二十四問が追加されています。発行年の記載はありませんが寛政八年以降の八年に近い年であろうと思います。ものの本には対象算額は六十四面とありますが、私は数えていません。
上巻は「巻之上」として二十四問、「増刻」として十七問。下巻は「巻之上附録」として

十八問、「巻之上附録増刻」として七問、「巻之下」として約三十問（但し不正確）。
図形問題がほとんどですが、具体的に問題を解いていないので不明ですが結構難問が多いようです。

見ていて一件気になる問題がありました。それは防州遠石八幡宮（山口県周南市）に寛政七年（一七九五）に貞資門人毛利石見守家臣山田政之助正国なる人物が奉額したもので、調べてみると上里町勅使河原の丹生神社の算額の問題（『埼玉の算額』 p74 にあります）と同じ内容でした。この算額は弘化三年（一八四六）に安原千方門人が奉額したもので、前者より五十年後です。ただ相違は図で、前者は享円径四十四寸貞円径三十三寸と具体数字を使用して利円径を求めているのに対して、後者は一般解を求めている点です。安原千方を調べている時にこの問題を解いてみましたので、前者の算額の数字を代入してみると「答」と一致しました。
それにしても千方、あるいは千方門人は神壁算法を見て真似して掲額したのだから



うか。真意は不明です。

編集後記

あまり内容のない「やまぶき」ですが、はや6号と相なりました。これからもしばらく続けたいと思っています。

東松山市正代の小堤幾蔵が明治十年に近くの世明寿寺に奉納した算額は市の文化財になっていますが、その全文が掲載されている文献がないか『埼玉の算額』は人名が略されています）、市の担当に問合せみました。数年現実物を格子越しに見たときは、風化してほぼ読めない状況だったようなので、文献に頼るしかないと思っただけです。市の担当者からの連絡は、（文化財に登録しておきながら）全文がないことを恥じ、専門家に依頼して改めて解読したいから少し待って頂きたいというものでした。そして三ヶ月後に解読結果が届きました。風化の為読めない箇所も少しあったようですが、欲していた情報（人名）がありました。そして、何よりその対応の仕方に大いに感激しました。次号でその結果を掲載する予定です。